



多様な働き方の一つに「在宅ワーク」という選択肢も… あなたの強みを生かせば 自宅でも仕事ができる時代



政府が掲げる成長戦略の一つ、「女性の活躍の推進」に沿って、女性の働き方も多様化しています。在宅ワークもその一つで、近年ワーカーの数が増え続け、約130万人とも言われています。在宅ワークにはどんな仕事があるのか、需要は？…そんな疑問を在宅ワーク事情に詳しい、三菱UFJリサーチ&コンサルティングの大嶋淳俊さんに聞きました。



大嶋淳俊さん（三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)経済・社会政策部主任研究員）
同社は、厚生労働省から委託を受け、「在宅就業支援事業」の事務局として、在宅ワークの総合支援サイト「ホームワーカーズウェブ」の運営やセミナー開催などを行っています

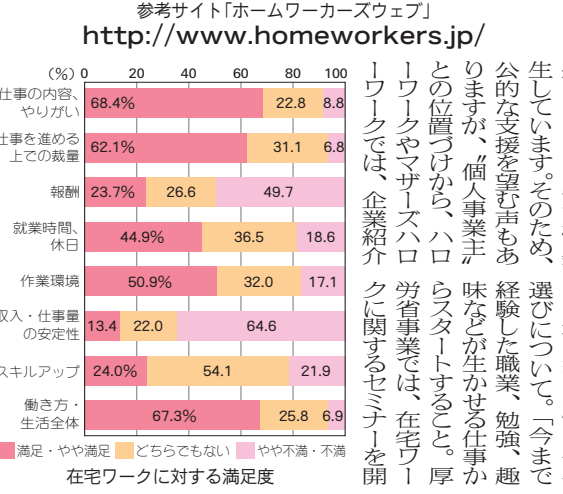
在宅ワークとは
パソコンなどの情報通信機器を使い、請負契約に基づいてサービスの提供などを行うこと。在宅勤務や内職とは異なります。

在宅ワークで仕事を獲得するルートは、大きく3つ。1つめは、企業と直接やりとりする方法。以前務めていた会社から仕事を請け負うケースが主流です。2つめは、仲介機関に登録し、仕事を紹介してもらう方法。3つめは、話題の「クラウドソーシング」（仕事のマッチングサイト）を通して仕事を獲得する方法です。「クラウドソーシング」の登場で、高度なスキルを持ったプロフェッショナルから、小さなコラムを書きライターまで、自分に合った仕事を手軽に探すようになり、在宅ワークの業種は、さらに多様化しています。将来性を示唆します。

在宅ワークは個人事業主、自身の注意が肝心。仕事と育児を調和させる働き方ができる在宅ワークは、社会的な関心や期待が大きい一方で、契約をめぐるとトラブルが発生しています。そのため、公的な支援を望む声もありますが、「個人事業主としての位置づけから、ハロワワークやマサースハロワークでは、企業紹介

は行っていません。厚生労働省では、在宅ワーカーが安心して契約し、仕事ができるよう『在宅ワークの適正な実施のためのガイドライン』の作成や、『在宅就業支援事業』などの施策を行っています。また『在宅ワーカーのためのハンドブック』などの資料を配布している『まい話』には気を付けて、契約条件は文書で確認し、保存しておきましょう。

在宅ワークで仕事を獲得するルートは、大きく3つ。1つめは、企業と直接やりとりする方法。以前務めていた会社から仕事を請け負うケースが主流です。2つめは、仲介機関に登録し、仕事を紹介してもらう方法。3つめは、話題の「クラウドソーシング」（仕事のマッチングサイト）を通して仕事を獲得する方法です。「クラウドソーシング」の登場で、高度なスキルを持ったプロフェッショナルから、小さなコラムを書きライターまで、自分に合った仕事を手軽に探すようになり、在宅ワークの業種は、さらに多様化しています。将来性を示唆します。



住みよい広島をみんなで考えていきたいと思います。記事へのご意見や感想、要望などは、編集長ダイレクトeメールへお寄せください。
hensyucho@hiving.jp

「まずは、在宅ワークを正しく知ることが大切。ワーカーは、会社員や内職と異なり、基本的に個人事業主なので、仕事のスキルだけでなく、発注先との契約や法律に関する知識も必要です」と大嶋さん。その助けとなるのが、在宅ワークの総合支援サイト「ホームワーカーズウェブ」です。在宅ワークに関する質問で最も多いのが「在宅ワークに就くための経験した職業、勉強、趣味などが生かせる仕事からスタートすること。厚生労働省では、在宅ワークに関するセミナーを開くなど、生活にハリをつけること」です。家族とよく話し合い、理解や協力を得ることも、もちろん大切です。

在宅ワークの難しさ
①賃金が安く、生計が成り立たないため労働とはいえないケースがある
②仕事に対する責任感があまいで、趣味の延長と思われるケースがある
③業務内容が限られていて、仕事の発注が少ない
④自宅という環境下では、本人の自覚がしっかりとないと仕事にならない

「まずは、在宅ワークを正しく知ることが大切。ワーカーは、会社員や内職と異なり、基本的に個人事業主なので、仕事のスキルだけでなく、発注先との契約や法律に関する知識も必要です」と大嶋さん。その助けとなるのが、在宅ワークの総合支援サイト「ホームワーカーズウェブ」です。在宅ワークに関する質問で最も多いのが「在宅ワークに就くための経験した職業、勉強、趣味などが生かせる仕事からスタートすること。厚生労働省では、在宅ワークに関するセミナーを開くなど、生活にハリをつけること」です。家族とよく話し合い、理解や協力を得ることも、もちろん大切です。

「まずは、在宅ワークを正しく知ることが大切。ワーカーは、会社員や内職と異なり、基本的に個人事業主なので、仕事のスキルだけでなく、発注先との契約や法律に関する知識も必要です」と大嶋さん。その助けとなるのが、在宅ワークの総合支援サイト「ホームワーカーズウェブ」です。在宅ワークに関する質問で最も多いのが「在宅ワークに就くための経験した職業、勉強、趣味などが生かせる仕事からスタートすること。厚生労働省では、在宅ワークに関するセミナーを開くなど、生活にハリをつけること」です。家族とよく話し合い、理解や協力を得ることも、もちろん大切です。

「まずは、在宅ワークを正しく知ることが大切。ワーカーは、会社員や内職と異なり、基本的に個人事業主なので、仕事のスキルだけでなく、発注先との契約や法律に関する知識も必要です」と大嶋さん。その助けとなるのが、在宅ワークの総合支援サイト「ホームワーカーズウェブ」です。在宅ワークに関する質問で最も多いのが「在宅ワークに就くための経験した職業、勉強、趣味などが生かせる仕事からスタートすること。厚生労働省では、在宅ワークに関するセミナーを開くなど、生活にハリをつけること」です。家族とよく話し合い、理解や協力を得ることも、もちろん大切です。